



# 臨床糖尿病支援ネットワーク MANO a MANO



“mano a mano”とはスペイン語で“手から手へ”という意味です

## 新年によせて

〔当法人代表理事〕

杏林大学/近藤医院

近藤 琢磨 〔医師〕

2023年を迎え、皆さまいかがお過ごしでしょうか？長く続くコロナ禍の中、今年はどうのような年になるのか、不安と期待が入り交じっている、というのが正直なところだと思います。しかしながら、我々は着実に新しい世界に順応し、決して暗いだけではない新たな社会の姿を見出しつつも感じます。

昨年4月に貴田岡 正史先生の後を引き継ぎ一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワークの代表理事に就任してから早8ヶ月が過ぎました。この間、私個人として様々な経験をしていくなかで、貴田岡先生がいかに重責を感じながら法人を取り仕切り運営されてきたかということに改めて思い知らされました。それと同時に、西東京地域や糖尿病に携わる方々、そして糖尿病の患者さんに対して、我々が果たす役割は決して小さくはないということも実感しました。これからも会員の皆さまお一人お一人と力を合わせて、より活発な活動を展開していきたいと考えています。

さて、最近の糖尿病領域での話題で、糖尿病という病名が変わるかも、ということが言われ始めました。実際はだいぶ前から糖尿病の病名変更については、意見が出されていました。一つは、病態を正しく反映していないため、「糖」が「尿」にでてくる病気という昔の言葉を直訳してこれまで糖尿病という病名が使われてきました。実際には、尿に糖が出てくる前に血液中の糖の値(血糖値)が上昇し糖尿病の状態になることがあるわけで、誤解が生じその対策や治療が遅れるのでは、という意見があります。血圧が高い病気が高血圧症であるならば、糖尿病は本来「高血糖症」と言うべきなのかもしれません。もう一つの理由は、病名に「尿」と入ることで、病気のイメージが何か汚らしいといったマイナスのイメージを抱きやすいと思われるからです。昨今、患者さんのスティグマ(負のレッテル)をどのように排除していくか、そのために我々医療者・介護者自身に何ができ実践していくべきか、という議論の機運が高まっています。今回の病名変更の動きは、どちらかと言えば後者が主な理由となっているようです。「健康な人と変わらない」を「糖尿病のない人と変わらない」に、「血糖コントロール」を「血糖マネジメント」といった言葉の変更も確かに大切かもしれませんが、我々はこの問題の本質を見失わないようにしていくことが重要ではないでしょうか。

読んで  
単位を  
獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士(LCDE)は、更新のために5年間に於いて50単位を取得する必要があります。本法人会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**(5年間で10単位)を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。

(「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出、一部改変しております。)

**問題** ●次の文章を読んで以下の質問に答えてください。

62歳、男性。4年前より会社の健診で高血糖を指摘されていたが、自覚症状がないため放置。今年の健診でも高血糖を認めたことから家族に促されて来院。

【検査所見】食後2時間血糖値286mg/dL、HbA1c 8.7%、尿糖(3+)、尿蛋白(±)、尿ケトン体(-)

**問題** この患者に対して行うこととして誤っているのはどれか、1つ選べ。

1. 家族歴の聴取
2. 眼底検査
3. 75gOGTT
4. 栄養指導
5. 心電図検査



## 報告

## 糖尿病災害対策委員会 第9回患者さん向けセミナー

日時:令和4年9月5日(月)  
オンライン

[当法人会員] 杏雲堂病院 富永 晴郎 [管理栄養士]

「1型糖尿病患者さんの為の災害対策～災害時生き抜くための知恵と対策を学ぼう～」をテーマにシンポジウムがWeb開催された。毎年災害の日の前後に行われていた当セミナーは、今回コロナ禍で初めての開催となった。司会は多摩総合医療センターの辻野 元祥先生、杏林大学病院の小林 庸子先生が務められた。

多摩センタークリニックみらいの宮川 高一先生は、地震、台風、火山、感染症など様々な非常事態におけるインスリン療法について幅広く解説された。普段の血糖コントロールを良好に保ち、食料・薬・インスリンを備蓄し、シックデイルールなど知識面も備えることが大切だと話された。大和調剤センターの薬剤師、森 貴幸先生は、東日本大震災や熊本地震での支援活動から被災地の状況を報告し、その経験から薬やインスリンのローリングストックを推奨され、高温や光に弱いインスリンの保管方法などを語った。クリニックみらい立川の看護師、檜垣 美幸先生は、シックデイとフットケア対策について話された。災害時のようなシックデイになりやすく、足病変が悪化しやすい環境における様々な対処法について丁寧に解説した。駒沢女子大学の管理栄養士、西村 一弘先生は災害時のカーボカウントについて話された。ご飯やパンなどの主食、災害時に配付されることの多い食品、備蓄食品などの炭水化物量をあらかじめ知っておくと非常時の血糖コントロールに活かせると説明された。

どの先生も当法人で作成した「糖尿病災害時サバイバルマニュアル」の活用法を具体的に紹介し備えることの大切さを伝えた。また災害時は低血糖を避けるために血糖値は高めで構わないこと、全くインスリン注射がない場合は躊躇せずに救護所などに救助を求めることなどを各先生が繰り返し話され、それらは1型糖尿病患者さんが生き抜くために重要なこととして参加者と共有できたと考える。



## 報告

## 臨床糖尿病支援ネットワーク 第73回例会

日時:令和4年9月8日(木)  
オンライン

[当法人会員] 東京都立多摩総合医療センター 櫻田 麻耶 [医師]

第73回例会は「患者さんの思いを尊重する糖尿病診療」をテーマとし、102名の方々にオンラインでご参加いただきました。

特別講演として、東京都立小児総合医療センター 内分泌・代謝科の瑞慶覧 宏彰先生より、「1型糖尿病を携えた医師として患者と向き合う」という演題でご講演いただきました。瑞慶覧先生ご自身が11歳のときに1型糖尿病を発症され、これまでのご自身の道のり、患者さんと向き合う中で、具体的なエピソードを交えたお話を伺いました。「自分自身で考えて血糖コントロールのためよい選択ができる」ことを目標に、「1型糖尿病を受容し、その位置づけを確認し、自立をする」、このプロセスを私たち医療者がサポートすることの重要性を教えていただきました。今できていることを承認し、正確な情報を適切に繰り返し伝えること、傍にいて一緒に考えること、疾患理解を促しありのままを認めることの大切さを改めて認識いたしました。

パネルディスカッションは、熊倉医院の熊倉 淳先生、クリニックみらい立川の菅原 加奈美先生、多摩センタークリニックみらいの國貞 真世先生をパネリストに、活発な発表と討論がなされました。糖尿病の病型にかかわらず、心を寄せて患者の声を聞き、「愛」という「信頼関係」をもって相対することの重要性を共有することができました。

最後に、開会の辞を頂戴した近藤 琢磨先生、閉会の辞を頂戴した松下 隆哉先生、Zoomのホストをお勤めいただいた日本医科大学多摩永山病院の小谷 英太郎先生、パネルディスカッションの座長をお勤めいただいた川越内科クリニックの川越 宣明先生をはじめチームDの先生方、そして何より、例会に参加いただいた皆様に御礼申し上げます。





## 第9回日本糖尿病医療学学会

令和4年10月8日(土)～9日(日)

京都大学百周年時計台記念館

[当法人評議員]

熊倉 医院

熊倉 淳 [医師]

令和4年10月8日～9日に第9回糖尿病医療学学会(医療学の新たな幕開け)が京都大学百周年時計台記念館で開催されました。糖尿病医療学は、糖尿病をもつ人と医療者の良好な関係を基本として、医学的側面と人間的側面を考慮しながら、両者が協力して糖尿病治療と支援を行う理念と実践に関する学問です。奈良県立医科大学教授 石井 均先生は、症例検討を続けることで、①相手のことに深い関心を持ち、よく知りたい(聴こうとする)医療者の態度が、糖尿病をもつ人のウェルビーイング、満足感や安心感、治療意欲、生き方の選択に大きな影響を及ぼす。②相手の気持ちや感情が理解できたとき、その人の行動の意味が分かる。それが適切な支援の始まりになる。③真の理解に至るまで、医療者にとって不可解な判断や行動についての批評や反論を抑える力(不思議さや不可解に耐える力)が必要である。④相手の(真実の)語りや、相手を理解すること(医療者の想定しない状況で)突然起こることがある。それに至るまで希望と関心を持ち続けることが必要である。⑤慣れた、知り合いの医療者が近くにいることは闘病の支えになる。直接顔を見ることに大きな意義がある。⑥相手に葛藤が存在するとき、それを知ることによって医療者にも葛藤が起こる。それを共有することが共同で課題に取り組むことを可能とする。⑦医療者に怒る葛藤やおもいやり疲労について、それをケアするチームが必要である。というゆるやかな法則がみえてきているとの講演がありました。文教大学教授 布柴 靖枝先生は家族関係の心理の中で、患者の療養行動ベースになるのは家庭であり、家族は重要なリソース(強み)である。患者がどのような家族関係の中で生活しているかを把握することは糖尿病医療には必要なポイントであると講演されました。診療の中で病気のことだけでなく、本人のこと、家族背景までしっかりと把握する重要性について改めて実感しました。東京大学大学院保健社会行動学分野 加藤 明日香先生による糖尿病スティグマの講演では、糖尿病であることを理由に、実際に差別的な出来事を経験するexperienced stigma、差別を受けるのではないかと恐れるperceived stigma、スティグマを内在化させてしまうself stigmaに大別され、糖尿病をもつ人々の治療生活と社会生活に大きな影響を及ぼすことを示されました。シンポジウム症例では当院のCDEJ看護師 福島 琴美さんが「スティグマのなかを生きてきた盲導犬とともに来院した患者」を発表しました。両親からの虐待ともとれる家族の問題、医療者からのスティグマの問題、医療スタッフはどのような姿勢で患者を迎えればよいのかなど、さまざまなご意見をいただくことができました。また前述の布柴先生の“家族関係の心理”、加藤先生の“糖尿病スティグマ”の講演を聞いたことで、本症例をより深く理解することができました。

患者に寄り添う治療について勉強したい方は、糖尿病医療学に参加されることをお勧めします。

読んで  
単位を  
獲得しよう

**答え 3** 下記の解説をよく読みましょう。

(問題は1ページにあります。)

**解説** 1.○ 糖尿病の疑いがある場合は現病歴、既往歴、家族歴をとることは大切。

2.○ 2型糖尿病患者は糖尿病診断時にすでに網膜症を発症していることもあるため、眼底検査を行うことが望ましい。

3.× 随時血糖200mg/dL以上、HbA1c6.5%以上であれば「糖尿病型」と判定され、同日に測定した結果がともに「糖尿病型」であれば「糖尿病」と診断できるため実施はしない。むしろブドウ糖負荷にてさらなる高血糖のリスクとなる。

4.○ 4年前に高血糖を指摘されているが放置しているということは糖尿病に対する病識もないと考えられ、高血糖を是正するためにも栄養指導を早期に受ける方が良い。

5.○ 糖尿病は動脈硬化性疾患の危険因子の一つであり心電図検査を実施することは重要。

## 事務局からのお知らせ



事務局へのお問い合わせは当法人ホームページで常時受付けております。ご返答にはお時間をいただく場合がございますが、順次対応させていただきます。お急ぎの方は平日の10:00～12:00/13:00～16:00にお電話くださいますようお願いいたします。

## 《 2023年度 年会費納入のお知らせ 》

1月10日(火)より2023年度年会費の納入が始まります。  
会員継続される方は、ご自身のマイページにアクセスいただき、  
3月31日(金)までにご納入をお願いいたします。



## 研究会等のセミナー・イベント情報



◆ 主催事業 ◆ 共催・後援事業 □ その他

## ◆ 西東京CDEの会 第21回症例検討会

申込必要

テーマ：『多職種で考える糖尿病患者とスティグマ(仮)』

開催日：2023年2月1日(水) 19:00～20:40

参加方法：Zoomにて開催いたします

参加費：当法人会員 700円 / 一般 1,000円

申込：当法人ホームページの「セミナー・イベント情報」よりお申し込みください(1/25締切)

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

オンライン

## ◆ 第8回 糖尿病看護を語る会～先人の‘知’を次世代に継承していく為に～

申込必要

テーマ：『地域で暮らす糖尿病患者を支える連携—糖尿病患者へのエンドオブライフケア—』

開催日：2023年2月4日(土) 15:00～18:10

参加方法：Zoomにて開催いたします

参加費：1,000円

申込：セミナープログラムに掲載のメールアドレスにてお申し込みください(1/23締切)

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：5単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第1群看護>：2単位申請中

オンライン

## ◆ 糖尿病災害対策委員会 第10回医療者向けセミナー

申込必要

テーマ：『「糖尿病災害時 サバイバルマニュアル」～自分のことは自分で守れますか?～』

開催日：2023年3月2日(木) 19:20～21:00

参加方法：Zoomにて開催いたします

申込：当法人ホームページの「セミナー・イベント情報」よりお申し込みください(3/2締切)

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

参加費無料

オンライン

## ◆ 第11回 薬剤師糖尿病指導研究会

申込必要

テーマ：『2型糖尿病の薬物療法のアルゴリズム』

開催日：2023年3月4日(土) 15:00～17:00

参加方法：Microsoft Teamsにて開催いたします

申込：セミナープログラムに掲載のURLよりお申し込みください(2/28締切)

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：3単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：0.5単位申請中

☆東京都薬剤師会薬剤師生涯認定単位：1単位申請中

参加費無料

オンライン

## 発行元

一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク事務局  
〒185-0012  
国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802  
TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478  
https://www.cad-net.jp/  
Email:w\_tokyo\_dm\_net@crest.ocn.ne.jp

## 編集後記



新しい年が始まりますね。ここ最近、年の初めにとても小さな目標を立てています。本当に小さな、人に言えるほどのものでもない、笑ってしまうようなものですが、それでも、できた時は頑張ったとか良かったなどという気持ちになれます。自分で決めてすることは、凄く小さなことでも大事なことなのだと感じています。今年もまた小さな目標をたて、良い年となることを願って過ごしたいと思います。(広報委員 永田 美和)